

林業福島

No. **619**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.



3

2016

監修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 木の温もり



～美しく伝統ある 山村の再生に向けて～

福島県町村会会長
新地町長 加藤 憲 郎

皆様方には、日頃より、町村行政の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。また、これまで森林の整備、保全等に日夜努力を重ねておられることに對しまして、心から敬意を表するものであります。

さて、森林地域に立地する山村地域は、林産物の供給のみならず、国土の保全や水源のかん養等の多面的機能を有しておりますが、過疎化・高齢化や林業従事者の減少、間伐の遅れによる森林荒廃等が長期化し、厳しい状況が続いております。

このような中、国では現在、森林・林業施策の基本的な指針となる「森林・林業基本計画」の見直しが議論されております。政府が最重要課題に掲げる地方創生を実現するためには山村の再生は不可欠でありますので、山村の活性化が図られるよう、地域の実情を踏まえた実効性のある基本計画の策定を求めらるものであります。

また、東日本大震災と原発事故からまもなく五年が経過いたします。これまで国に対し、県土の約七割を森林が占める本県にとって、森林除染の実施は本県が復興・再生を果たすうえで不可欠であるとして、その実施を強く要請してきました。

国は、昨年末に全面的な森林除染は適当でないと判断をしましたが、県や市町村、森林関係団体からの再考を求める声を受け、除染の範囲については、地元の意向を踏まえながら柔軟に対応する考えを示しました。

森林は林業関係者の皆様にとつて就労の場であり、場所によっては放射線量が大きく、除染をしなければ事故前のように林業に従事できないと大変不安を持たれていることと思っておりますので、今後も国の動きを注視しながら、適宜、要請を行っていかねばならないと考えております。

さらに、最近では、都市の若者や子育て世代の中に、経済性や効率性だけでは語ることのできない価値を山村に求める「田園回帰」の動きが見られますが、この動きを確かなものとするためにも、努力を重ねてまいりる所存であります。

県町村会といたしましては、今後も全国町村会並びに関係団体と連携を図りながら、美しく伝統ある山村を日本人の「心のふるさと」として次世代に継承していくため、全力で取り組んでまいりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら	林業労働力確保支援センターだより……	6
～美しく伝統ある山村の再生に向けて～	半田山の復旧に向けた治山工事について…	7
福島県町村会会長	「自然に親しむ」……	8
新地町長 加藤 憲 郎……	普及指導員通信……	9
トピックス	森連だより……	10
富岡町「夜の森さくらプロジェクト」苗木寄贈…	平成27年度福島県きのこセミナーを開催…	11
平成27年度林業普及指導員全体研修会を開催…	木材市況・ふくしま東西南北……	12
平成27年度林業研究グループ等活動発表会を開催…	はなしのひろば……	13
資格（林業技士）取得に向けた講習会を開催…		



「夜の森さくら」生産者の顔ぶれ

富岡町「夜の森さくら」プロジェクト「苗木寄贈」

福島県農林種苗農業協同組合

一月二二日、富岡町「夜の森さくらプロジェクト」苗木寄贈をいわき市「パレスいわや」にて行いました。

富岡町夜の森公園の桜は、明治三三年半谷清寿氏が農村開発の理想に燃えて荒れ野だったこの地を開拓し、入植の記念にと三〇〇本の桜を植え、この一帯が桜の名所になることを夢見、これが桜並木の始まりです。この想いは息子六郎氏や地区民

に受け継がれ、昔日の荒れ野は花のまちに生まれ変わりました。

四月中旬頃の満開時には、樹齢一〇〇年近くの一、〇〇〇本あまりのソメイヨシノが咲き乱れ、夜の森公園の桜通りや富岡第二中学校東側の桜並木が、桜花爛まん、「花のトンネル」を現出し、夜間はライトアップされて夜桜見物の人たちを楽しませてくれます。

原発事故後は、夜の森公園の桜は、「楽しませてくれました。」となりました。

富岡町の桜への想いは、富岡町の町民ばかりではなく、全国の皆様方から寄せられています。

「夜の森さくらプロジェクト」は、「夜の森のさくら」を母樹とする苗木を生産し、全国各地に届け、東日本大震災及び原発事故による被災地の風化防止、復興応援活動を目的として、平成二六年六月三日に富岡町と福島県農林種苗農業協同組合



「夜の森さくら」贈呈式

は覚書を締結しました。

同年六月二〇日、組合員六名による富岡第二中学校前の桜並木から接ぎ木用穂木を採取し、増殖に着手しました。

今回贈呈した苗木は、平成二七年三月九日に富岡第二中学校前の桜並木のさくらから穂木を採取し、オオシマザクラを台木として接ぎ木で増殖したさくらの苗木です。

福島県農林種苗農業協同組合は、富岡町へ心を寄せてくださる方々の近くで、「夜の森さくら」を母とした子孫のさくらが、美しく、きれいな花が咲き続ける富岡町、福島復興のシンボルとして富岡町の想いを込めたメッセージを全国に発信いたしますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ふくしまのさくら守りプロジェクト



平成二七年度

林業普及指導員全体研修会を開催

福島県林業振興課



研修会の様子

平成二七年度林業普及指導員全体研修会を二月二日（火）、県林業研究センター研修本館で開催し、林業普及指導員をはじめ林業関係者等約八〇名が参加しました。

この研修会では、県内の各林業普及指導地区の代表者七名が、日ごろの普及活動の取組についての活動発表会を行っており、今年は、特用林



報告への質疑応答

産の再生産を目指した取組、安全衛生対策の取組、経営改善の取組、森林整備を推進する取組など、日ごろの普及活動が報告され、それぞれの発表に対し活発な質疑応答が交わられました。

午後からは、静岡市林業研究会副会長の安池勘司氏より「しずおか市産材の利用促進と仕組み作り」と題



最優秀賞の表彰

して、林業研究グループによる地域材の都市空間への導入の取組と市や県の職員からの支援について、御講演をいただきました。

その後、県林業振興課飯沼課長より活動発表に対する講評があり、審査の結果、最優秀賞には益子利江さん（会津農林事務所）、優秀賞には飯沼良弘さん（県南農林事務所）が選ばれました。最優秀賞の益子さん は、岩手県で開催される平成二八年度林業普及指導員東北・北海道ブロックシンポジウムに福島県代表として参加される予定です。

各林業普及指導地区からの活動発表課題名は、次のとおりです。

「ふくしま森林再生事業等による森林整備の推進」

県北農林事務所 新津 修

「田村市都路町の森林再生について」

県中農林事務所 菅原 直樹

「県南地方における労働安全衛生対策について」

県南農林事務所 飯沼 良弘

「栽培わらびの出荷制限解除に向けた取り組みについて」

会津農林事務所 益子 利江

「南会津地区の特用林産物の地域振興 南会津地区のきのこ・山菜の再生に向けた取り組み（その二）」

南会津農林事務所 高畑 純

「生産森林組合の経営改善～山上生産森林組合に対する支援～」

相双農林事務所 福地 雅弘

「特用林産物の安全性の確保と生産振興に向けた取組」

いわき農林事務所 小池 陽子

平成二七年度 林業研究グループ等活動発表会を開催

福島県林業振興課

平成二七年度林業研究グループ等活動発表会を二月一日(月)、県林業研究センター研修本館で開催し、県内各地の林業研究グループをはじめ林業関係者等約八〇名が参加しました。

この発表会では、県内各地で自主的な実践活動を行っているグループの活動内容を各地区ごとに発表することにより、今後の各グループの活動の展開に資することを目的に毎年開催しており、今回は六団体から、森づくり活動、女性目線からの地域



発表会の様子



県知事賞の表彰

づくり、若者を取り込んだ地域づくり、わらび園の再開へ向けた活動、自然観察や木育への取組など、様々な活動について発表がありました。

午後には、石川県林業研究グループ連絡協議会会長の上野長次郎氏より、「林業後継者大会を契機とした担い手育成の取り組み」と題して、平成二七年度に開催された第四回全国林業後継者大会実行委員会会長の立場から見た大会開催までの林研グループの関わりや様々な取組について、御講演をいただきました。

その後、県林業振興課飯沼課長よ

り活動発表に対する講評、審査結果の発表があり、最後に表彰式を行いました。

審査結果は、次のとおりです。

区分	地区	グループの名称	発表のテーマ
福島県知事賞	南会津	館岩地区林業振興協議会	私たちが変われば南会津の林業は変えられる～館岩地区林業振興協議会女性部の活動～
公益社団法人 福島県森林・林業・ 緑化協会会長賞	県南	NPO法人 南湖森林公園案内人の会	森の大切さを伝える(自然観察や木工工作を通して)
福島県林研グループ 連絡協議会会長賞	県北	福島地区木材協同組合	ちびっこ青空木工教室の取組み
	県中	農事組合法人三株牧野組合	三株高原わらび園の復活を目指して
	会津	NPO法人 福島県もりの案内人の会会津支部	里山林「会津の森」の整備について
	いわき	フクシマ環境未来基地	森林ボランティア活動を核とした、若者育成、異世代交流、地域づくりの実践

福島県林研グループ連絡協議会 第十五回通常総会の開催

同日、福島県林研グループ連絡協議会第十五回通常総会を開催し、平成二八年度事業計画及び収支予算、役員改選等を協議しました。

新たな役員等は次のとおりで、任期は平成二八年四月一日から二年間となりますので、引き続きご指導、ご支援方よろしくお願いいたします。

【事業計画】

- 1 第六九回全国植樹祭に向けた活動
- 2 東北・全国規模で開催される各種研修会等への参加
- 3 高校生等に対する林業経営就業体験等事業の実施
- 4 県内で開催される研修会等への参加・支援
- 5 福島県林業祭への参加
- 6 森林・林業ボランティア活動への参加
- 7 グループ活動等に関する情報の提供

【役員】

- 会長 豊田 新一 (田人林業研究会)
- 副会長 小山 満 (下郷町林業振興協議会)
- 副会長 早矢仕恵子 (ふたばグリーンディスプレイネットワーク2000)
- 監事 松崎 勝美 (田村森林研究会)
- 監事 小椋 敏光 (館岩地区林業振興協議会)
- 【顧問】
- 渡邊 一夫 (NPO法人ふるさと森林の会)
- 蛭田 一 (田人林業研究会)

「資格（林業技士）取得に

向けた講習会」を開催

（公社）福島県森林・林業・緑化協会

一月二二日（金）、福島市の杉妻会館において、資格（林業技士）取得に向けた講習会を開催しました。

この講習会は、森林再生など復興需要が高まる中、林業事業者等における技術者養成支援を目的に日本林業技士会福島県支部、林業関係団体

等の後援を得て開催したもので、当日は、「平成二八年度林業技士養成研修」の受講予定者など三〇名が参加しました。

「林業技士制度」は、一般社団法人日本森林技術協会が認定する森林や林業に関する専門的技術者の資格

認定・登録制度で、昭和五三年度の制度発足以来これまで全国で約一万三千人の有資格者が登録されています。また、国や県の林業や森林土木事業における入札参加資格等において高く評価されている資格です。

講習会では、日本林業技士会会長で東京大学名誉教授（農学博士）の小林洋司氏が「技術者養成と林業技士制度について」をテーマに講話を行い、林業の現状や課題、林業の役割や木材利用の意義、林業技士制度の概要などについて説明がありました。

また、平成二五年度に林業経営部門（林業技士資格八部門の一つ）で合格した当協会業務部森林再生室の竹山誠主査が「林業技士養成研修を受講して」と題して体験を発表し、通信教育（レポート作成）やスクーリング研修について自らの体験を基に、参考資料の紹介や受講の注意点を語りました。

さて、本県の森林・林業の再生には中堅技術者の育成・確保が急務となっております。本講習会を契機に、林業技士資格取得へ向け多くの方が挑戦されることを期待しています。



日本林業技士会会長小林洋司氏による講話



当協会竹山誠氏による体験発表



受講状況

林業労働力確保支援センターだより

森林整備担い手対策の

取組について

—本年度基金事業実施の概要(2)—



高性能林業機械実践研修メンテナンス実習

◎はじめに

福島県林業労働力確保支援センター(以下、「支援センター」)では、林業の持続的かつ健全な発展に向け、事業体の雇用管理の改善、林業の担い手の確保・育成のため、各種事業を行っています。

ここでは、前月号に引き続き、支援センターが本年度に行った県の補助事業である森林整備担い手基金事業の林業労働者等研修事業の概要を紹介いたします。

高性能林業機械実践研修会 研修日程

室内研修 (1日目)	(1) 高性能林業機械の概要(種類)について (2) グループ討論・発表 「安全な作業のために～災害事例紹介及び対策～」 (3) 高性能林業機械の構造と保守・点検・管理の方法 (4) 林業仕様の可燃物堆積による火災警告 (5) これからの新しい高性能林業機械について
現地研修 (2・3日目)	(1) スイングヤーダの索張り研修(全員) (2) プロセッサによる造材作業 (3) スイングヤーダによる集材作業 (4) グラップル付フォワーダによる積込み・運搬作業 (5) 実機を使用したメンテナンス作業(オイル交換等) (6) スイングヤーダ索張り撤去(全員)

①高性能林業機械実践研修会

高性能林業機械による効率的な素材生産システムの習得のための研修を、平成二七年九月十四日から十六日までの三日間、いわき市田人町などで開催しました。(上段の研修日程)参加者は延べ七四名でした。



高性能林業機械実践研修タワーヤーダ索張り実習

②森林作業道作設研修会

効率的な素材生産システムの基盤である丈夫で簡易な森林作業道を作設するための研修会を、平成二八年一月十二日から十五日までの四日間、いわき市田人町の前山国有林で開催しました。これは、土木技術向上させるフォローアップ研修で対象者は、初級研修修了者または一定



森林作業道作設研修掘削状況



同上研修丸太組工設置状況

以上の経験と技術を有している者で、八事業体九名が受講しました。オリエンテーションの後、座学として、「研修補助教材二〇一四急傾斜地やぜい弱地での森林作業道づくり」を学んだ後、現地で踏査や土工の基本技術、簡易構造物の設置等を学びました。

③森林再生研修会

放射性物質に汚染された森林の再生のため、平成二八年一月二十九日に開催し、参加者は四名でした。

まずはじめに、室内研修として、国立研究開発法人森林総合研究所放射線物質影響評価監、高野勉氏より「森林内の放射性物質動態に関する最新の知見」と題して、放射性物質



室内研修での参加者と講師の高野氏

の基礎知識、森林総研の取組概要、汚染の現状と今後の推移、森林整備に向けた実証事業について

等の講義をいただきました。続いて、福島県森林整備課主幹兼副課長、柳田範久氏から「福島県の森林・林業再生の取組」と題して、依然として森林整備面積が大震災前の約半分であること、森林・林業への影響や森林整備停滞による影響、「ふくしま森林再生事業」の概要や流れ、施工事例について講義をいただきました。

午後の現地研修は、二本松市吉倉字家老山地内の県行造林地における「ふくしま森林再生事業」の実施状況を見学しました。



現地研修で間伐についての説明を受ける参加者

県北農林事務所の担当者から、事業実施前までの施業履歴、実施状況(間伐・作業道・放射性物質対策として丸太筋工、木材搬出)について、また、丸太筋工の採用理由、空間放射線量率の施工前後の推移の状況などについて説明を受けました。

◎おわりに

支援センターでは今後も、様々な事業・研修会等を展開していきますので、よろしくお願いたします。

「半田山の復旧に向けた治山工事について」

林野庁 関東森林管理局
福島森林管理署 治山グループ

福島森林管理署は、北は伊達郡桑折町から南は郡山市にわたる五市四町一村（五八、六五二杉）の国有林野を管理・経営しています。

平成二三年三月十一日午後二時四六分に宮城県沖を震源とする東日本大震災の大きな揺れにより、半田山（伊達郡桑折町）の東斜面に大規模な山腹崩壊が二箇所発生しました。その際、桑折町役場付近でも大きな山鳴りが確認されたとも言われています。

被災当時は、桑折町をはじめ周辺住民の方々から早期復旧を願う要望が多数寄せられました。

また、当該箇所は国道四号付近から崩壊状況が眺望できるほどの大きな災害でありました。

半田山（標高八六三メートル）は、うつくしま百名山及び県立自然公園に指定されており、県内外から多くの来

訪者が豊かな自然を求め訪れる場所であり、春は美しい桜が満開となる名所となっています。

また、震災後開催を自粛していた半田山山開きが開催されるなど、震災前の活気を取り戻しつつあります。

半田山は、江戸時代から明治時代にかけて重なる地滑りが発生し、現在の姿になったと言われています。当署では半田山の復旧に向け、平成二三年度に崩壊地の状況調査を実施し、平成二四年度より本格的な復旧治山工事に取り組んでいます。

当該箇所の下流域には、半田山自然公園をはじめ、民有林林道、簡易水道施設など保全対象が存在しています。

施工箇所は、東部地区（一・三五杉）・西部地区（〇・五六杉）の二箇所に分かれており、両地区ともに

急峻な地形となっております。

復旧治山工事を実施するにあたり、可能な限り木材を使用した工種の採用を検討することにより、施工地周囲の環境及び景観への配慮が可能となり、かつ、木材の利用拡大につながるものと考えています。

施工地が急傾斜地であるため、資材運搬はモノレールを設置し、運搬するなどの対策を行いました。

平成二七年度までの進捗率は、約七〇割となっております。その主な工種は、斜面の浸食及び崩壊の防止を図る簡易法棒吹付工、不安定な土砂の移動の抑止及び斜面勾配の修正、表面流下水の分散等を図る鋼製自在枠、木製校倉式土留工、山腹の地表浸食を防止するとともに植生の生育環境を図るための丸太筋工などを施工しています。

また、植生マット伏工を施し、早期緑化に努めています。

しかしながら、大規模な崩壊のため、震災後五年を経過してしまいました。未だ概成には至っていません。

福島森林管理署では、半田山の豊かな緑を取り戻すため、早期復旧に向け取り組んでおります。



平成27年12月撮影（半田山管理センター駐車場より）



平成23年5月18日撮影（伊達地方消防組合西分署付近より）

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 12 |

戸津辺のサクラ

樹木医 鈴木俊行



「戸津辺のサクラ」は、東白川郡矢祭町中石井字戸津辺地に生育している。生育地は、国道一一八号を塙町から矢祭方面に向い、矢祭町に入って間もなくJR水郡線の高架をくぐる。くぐったらすぐに左手に曲がると正面の小高い丘に姿を現す。国道一一八号からもJR水郡線の東側の丘に本樹を見ることが出来る。本樹についての故事来歴等であるが、本樹の生育地一帯はかつて「上の屋敷」と呼ばれていたところで、このサクラは高貴な人の屋敷に植えられていたものといわれている。本樹の名称は、地名によるものである。また、「種子播き桜」として開花の状況などから農作業を始める目じるしともなってきた桜である。さらに根元には小さな祠があり、古くから信仰の対象として地域で大切に保護されて来た。

生育地の地形は、緩やかな南斜面で、根元周辺は樹冠投影下の範囲が広く柵で保護され、西側は急な斜面でスギが生育し、その下にはJR水郡線が通っている。東側は農道を挟み深い谷の地形で、果樹畑となっている。南と北側は牧草地や野菜畑となっていて、日照条件も良く生育環境は良好である。

本樹の樹種はバラ科サクラ属のエドヒガンである。エドヒガンはサクラ類の中でも長寿の種で、本樹の推定樹齢は約六〇〇年といわれる古木で、平成十二年三月三十一日に福島県の天然記念物に指定されている。

形状寸法は、樹高一七・五〇メートル、幹周六・八〇メートル、根元周七・三〇メートルの巨樹である。主幹南側下位部及び北側中位部には、大きな開口の覆冠治療跡がある。また、主幹は根元付近と地上四・〇メートル程度から数本の主枝を分岐し大きな樹冠を形成している。

枝張りは、東一五・一〇メートル、西一〇・一〇メートル、南一五・三〇メートル、北一八・二〇メートルと均整のとれた枝を四方



中で、樹形の美しさ、ロケーションの良さでは群をぬいており、私の好きなお勧めのサクラの一本である。

に大きく広げ、一本でこん盛とした森を思わせる樹形を呈している。本樹の保護保全には、「戸津辺の桜を守る会」が下草刈りや施肥、防除などの育成管理を定期的に行っている。また、県と町は平成十三年十月から平成十四年二月にかけて、主幹腐朽開口部の覆冠、枯枝切除、土壌改良、根系保護柵の設置などの外科的、内科的な大々的な治療を実施している。その後も保護柵の拡大や根系保護のための木道の修繕や新設などを行ない保護保全に努めている。

本樹は、本県のサクラの中でも一番早く咲き四月上旬には満開となり多くのサクラファンを魅了している。私の一押しは、何と言っても樹形の美しさである。特に東側の畑から仰ぎ見る姿は、まるで白鳥が羽を大きく広げ今にも飛び立とうとするかのようなすばらしい樹形で、圧倒される。福島県内のサクラの巨樹の中で、樹形の美しさ、ロケーションの良さでは群をぬいており、私の好きなお勧めのサクラの一本である。

森林整備に求められる道づくり

■会津農林事務所

林業普及指導員 吉成吉美

会津地域森林計画区の対象森林は約24万haで、うち当会津農林事務所は約14万haの森林を管轄しております。この広大な森林の整備を着実に進め、将来にわたって適正に管理していくためには、効率的な森林整備の基盤となる路網整備が不可欠です。

しかし、近年の林道事業は、限られた予算の中で、より優先順位の高い路線を整備していますので、地元の要望には応えきれない状況にあることから、効率的・効果的に林道や作業道を整備するため、市町村や林業事業者の方々を対象に、国・県道、市町村道へのアクセスを工夫するための線形や設計等について指導してまいりました。

会津地方は、積雪寒冷地に加え急峻な地形が多く、他と比べ立地的条件が厳しいため、いかにして素材の搬出コストを抑えて競争力を高められるかが求められています。また、人工林の高齢級化が進んでおり、持続的に人工林を管理していくためには、適時適切に伐採して跡地に再び植栽することで、資源の循環利用と再生のバランスをとることが重要です。以上のことから、未来への投資として10年、20年先でも多少手を加えれば利用が可能な、“丈夫な道”づくりの普及に取り組んでまいりましたので、その内容を紹介します。

事例 A地区 整備区域面積 74.4ha 作業道整備延長 1,000m 路網密度 16.8m/ha→30.2m/ha
B地区 整備区域面積 150.8ha 作業道整備延長 1,000m 路網密度 17.9m/ha→24.5m/ha

○作業道作設で特に留意するよう指導している点

- 盛土で路体を構築する場合は、盛土を強固にするため、盛土断面のみならず地山側の路体について掘り起こし、法尻の盛土と一体的な締固めを行うこと。
- 路面洗掘を防止するため路面排水工を短区間で配置すること。（近年は丸太とゴム板の横断排水も多く見られるが、走行性は多少悪くなるが素堀りにより路面を凹型とし横断排水する。）
- 急峻な箇所への盛土に丸太を利用して補強する場合、恒久的な構造物ではないことから柳粗朶などを盛土に挿し、植生による安定を図ること。

〈作業道作設における各工種の事例〉



丸太路盤工



素堀り横断排水工



丸太積工

○作業道の計画的な整備

- 土質が悪い箇所が多い会津地方においては、含水比が高くなる雨が多い時期は作業効率の低下のみならず安全からも避けるべきですが、補助事業の事務手続きの都合で適期に着手できないことがあります。

そのため、森林整備と作業道開設のスケジュールを検討し効率的に進むよう、森林経営計画作成や補助事業の事務手続きについても指導しています。



相馬地方森林組合が導入したドローン

森連だより

県内林業界初?! “ドローン導入”

みなさんは「ドローン」と聞いて何を思い浮かべますか？

そもそも「ドローン」と言う言葉が広く認識されるようになったのは、昨年春に発生した首相官邸無人機落下事件ではないでしょうか。他にも小型無人飛行機を飛ばすとインターネット上で予告し、祭りの進行



を妨害した事件など、悪い印象を持つ方が多いのではないかと思います。

こうした新しい技術に対しては、マイナス面ばかりが大きく取り上げられがちですが、世界ではその利便性の良さから、人が容易に近づけない災害現場での利用や、将来的には配送サービスへの活用など様々な分野での利用が期待されています。

そして近年、日本の林業界においても「ドローン」の活用が模索され、徳島県的那賀町では架線集材のワイヤロープを設置するための細引きの架け渡しへの活用を目的とした実証実験が行われたほか、青森県では松くい虫の被害状況の調査手法としての活用が検討されています。

こうした流れのなか県内林業界では初めて、相馬地方森林組合で事業にドローンを活用する試みが行われ

ました。同組合では、東日本大震災で被害を受けた海岸防災林の復旧に取り組んでおり、広大な施業現場の施工管理をするために何か良い方法はないかと思案した結果、安価で導入が容易なドローンへと辿り着きました。

今回、組合が導入した

ドローンは、大きさが約三五センチ四方、高さ約二〇センチ、重さ一・三キログラム程です。組み立ては、本体に四枚のブレードを取り付け、バッテリーを入れるだけで、特別な工具を必要としません。操作は、リモートコントローラーにより行いますが、ラジコンの様に直感的に扱え、カメラからのライブ映像を確認しながら操作できるので初めての人にも簡単です。

ただし、航空法や電波法等の法令遵守と、十分な安全を確保することが必要です。

こうした取扱いの注意点と操作に関する説明を受け、実際に屋外で飛ばすと、風の影響を受け少し風下に流れますが、それ以上に安定感があり、画像もぶれることなくきれいに撮れます。操作した組合の方からも、とても操作しやすく、画像もき



ドローン操作風景

れいで十分に事業に対応することができるという反応も上々でした。

なお、撮影した空中写真からは、オルソ・3D画像も作成することが可能で、森林情報等の基盤整備にも期待ができます。

この度の組合の試みに対して、当会としても何か協力できることはないかと考え、購買部門を通じた情報収集や、操作予定者への事前の操作練習の機会を提供させていただきました。ドローンの導入を検討されている方や興味がある方は、当会へお声掛けください。

また、森林組合系統では鋸や斧、長靴等の山道具だけでなく、日用品まで広く取り扱いしておりますので、ご要望がございましたら、お近くの森林組合までお気軽にお越しください。

平成二七年度福島県きのこセミナーを開催

（公社）福島県森林・林業・緑化協会
（福島県きのこ振興協議会）

平成二八年一月二日（金）、福島県きのこ振興協議会は、福島県農業総合センターにおいて、約一〇〇名の参加のもと平成二七年度きのこセミナーを開催しました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から五年目を迎えようとしているなかで、県内のきのこ産業も自立の兆しが見え始め、現状を見直すとともに将来のきのこ栽培のポイント



セミナーの様子

を探るといことから、今年のテーマは「次世代に向けて」としました。

開催に当たり、来賓を代表して福島県林業振興課主任主査の古川成治氏から祝辞をいただき、午前中は原木栽培を中心に、午後は主に菌床栽培を中心にセミナーを進めました。

また、きのこ生産者からの質問等に対応するため、各きのこ種菌メーカーの方々の御出席もいただきました。

最初の講演は、福島県林業振興課の古川成治氏から「福島県におけるきのこの放射性物質検査状況」、「福島県におけるきのこ原木の供給状況」、「原木しいたけ栽培再開のための実証試験」という三つの演題で、きのこ栽培における放射能による影響の実状や将来を見据えた取り組みなどに併せて、原木しいたけの露地栽培再開に向けた県の調査・検証等が紹介されました。

午後には、株式会社北研食用菌類研究所の高橋信氏から「中山間地域



セミナーの様子

の紹介がありました。全国でも誇れる生産規模となった組織の設立から現在までの歩みや、経営理念、地域貢献などにチャレンジや夢を織り交ぜた講演となりました。

最後に長野県の株式会社協全商事の平森親男氏から「生産コスト削減に向けた取り組み」と題し、最新技術が紹介されました。全国一のきのこ生産県を支えてきた機械の製造メーカーとしての豊富な経験や新たな取り組みなど貴重な話を伺うことができました。

今回のセミナーは、原木生産者・菌床生産者それぞれが研修に参加されるよう講演の内容を幅広く設定して情報を提供することとしました。

県内のきのこ生産者の方々は、まだまだ放射能の影響や風評と対峙しながら生産に取り組んでおられますが、福島県きのこ振興協議会としては、生産者の方々の将来を見据えた新たなスタートを少しでも後押しできるような、これからも積極的に支援してまいります。

での産地化への取り組み」と題し、群馬県上野村のきのこセンターの役割や人口増加対策のための雇用の推進に関するなどが、地域の森林資源の有効活用や産地地消の動きなどに絡ませて紹介されました。

次に、いわき菌床椎茸組合の渡部明雄氏による「大規模・高品質生産への挑戦」と題した福島県内の事例



木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(12月15日現在)

(単位：㎡当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9(8~10)	0	(0~0)	0	9(8~9)	0	9(8~10)	0
		10~13				12(11~12)	0	9(9~9)	0	10(10~10)	0	11(9~12)	0
	中	14~18	3.00	並	スギ	13(13~14)	0	13(13~13)	0	11(9~12)	0	12(9~14)	0
						6.00	並	スギ	14(12~16)	0	(0~0)	0	15(15~15)
		20~28	3.65	並	スギ				17(15~19)	0	12(10~14)	4	15(14~17)
						4.00	並	アカマツ	22(16~25)	△3	(0~0)	0	22(18~25)
	1.80	並	アカマツ	12(11~13)	0				11(11~12)	△1	10(9~11)	0	11(9~13)
				外	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	31(27~35)
	北洋材	28以下	3.80						並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)
				南洋材	70~90	8~14	並	ラワン			(0~0)	0	(0~0)
パルプ用材	-	-	並						マツ	5(5~5)	0	(0~0)	0
				並	広葉樹	8(8~8)	0	(0~0)		0	7(7~7)	0	8(7~8)

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(~)		7(6~9)	0
	13~14				(~)		8(7~8)	0
	16以上				(~)		10(9~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

十一月の原木市場への入荷状況は、前月比一四割増(前年比一割減)の二九、五八二立方メートルとなっている。販売量については、前月比一〇割増(前年比四割減)の二八、六四九立方メートルとなっている。十二月の価格については保合となっている。

震災のあった平成二三年度から始まった南会津産木材市は今年で五年目を迎えた。土場として使用しているだいくらスキー場の駐車場に、地元材が並ぶのも見慣れた光景となっていた。

今年度も六月の順調な開催に引き続き、十月開催の準備を進めていた中、南会津郡に大きな影響を及ぼす災害が発生した。平成二七年九月関東・東北豪雨災害だ。被害は南会津町内の広範囲におよび、だいくらスキー場の斜面崩落もあって、被害の大きさに驚愕していた。各関係者が被害の状況や対応に追われ、一刻も早い復旧に向けて動いていた最中、事務所に「木材市で使用している駐車場を土砂置き場としたい。」との一本の電話があった。

木材市の開催を中止しようかという声も挙がったが、ようやく軌道に乗ってきた木材市をここで中断するわけにはいかないという思いが強くあった。

連絡があった後、すぐに代替地を探し始めた。同様の好条件な場所が見つからない中、二つの候補地を挙げた。しかし、どちらも南会津郡の東西よりの位置にあるため、搬出距離が長くなり、出材量が減少してしまいう可能性があった。そこでその欠



豪雨災害を乗り越える

南会津産木材市

南会津農林事務所 山下 陽平

点をなくすために思いついたのが二箇所での同時開催だった。すぐに各関係者に経緯の説明等を行い、二つの新土場を確保でき、無事に木材市を開催することができた。出材量は目標の九〇〇立方メートルを上回る一、〇〇〇立方メートル以上の出材があり、好評のまま終わることができた。

ここで中断せずに開催したことにより、次の木材市(来年度はだいくらスキー場駐車場に戻れる見込み)につなげることができて嬉しく思う。そして、ご協力いただいた、各関係者の方々にこの場をお借りして感謝申し上げる。



南会津の山に栄える木材市



卒業式

それは、感動的な卒業式だった。広いステージの中央には高校三年生の保護者代表と校長先生二人だけが椅子に腰掛けていた。「今日のこの日に君達が一番感謝を捧げなければいけないのは、三年間物心両面で支えてくれた君達の保護者の方々です。」当時の鶴川昇校長先生（横浜市・桐蔭学園）のその挨拶で合点がいった。そして「次に感謝を伝えてほしいのは…」と続け、ステージには教員、図書室、医務室、購買部、食堂、寮、それぞれの代表の方たちが登場した。生徒代表が、三年間支えて下さったことに感謝し、花束を贈呈。最後に校長先生の「君たちは、ここで学んだことを誇りに生きていきなさい。」それがはなむけの言葉であった。閉式まで三〇分余。「三年間の業」を終えた式典には、外部の来賓は一人もなく、桐蔭学園の教育理念そのものだった。

一方、過日、NHK全国短歌大会特選の作品が新聞に掲載された。「一人でもひとりではないと答辞よむ原発村の少女の卒業」みんな避難をして一人の卒業式だが、心は繋がっているという。あの原発事故から五年が経過するが、原発村という表現が未だ生々しい。三月になると思いたす息子の卒業式と否応なしの一人の少女の卒業式、どちらにもかけがえのない価値がある。

三月は桜前線が少しずつ北上し、本格的な春の訪れだが、三月十一日をそれぞれの思いで、必ず通り越さなければならぬ。「おひさまのしずく」という詩集に小学二年生の女の子（福島市）がこんな詩を寄せている。「さくらの花がさくころは／うれしさとかなしさが／りょうほういつぱんにやってくる」桜は心で見えるもの。と、かつて聞いたことがある。（都）

表紙の写真



「木の温もり」

第12回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選を受賞した佐藤源策さん（郡山市）の作品。撮影場所（福島県林業研究センター）

編集

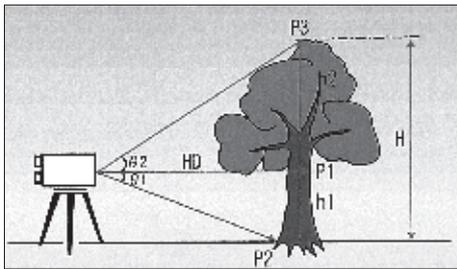
発行

編集 福島県内四森林管理署
 福島県森林・林業・緑化協会
 福島県森林組合連合会
 福島県木材協同組合連合会
 福島県農林種苗農業協同組合
 ふくしま緑の森づくり公社
 森林総合研究所福島水源林整備事務所
 福島県森林・林業・緑化協会
 （福島市中町五番一八号県林業会館内）

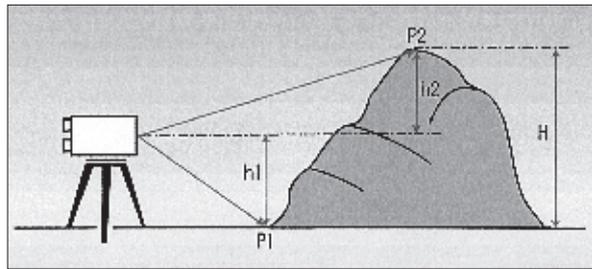
発行 相馬 雅俊
 陽光社印刷株式会社
 （定価 一〇八円）

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

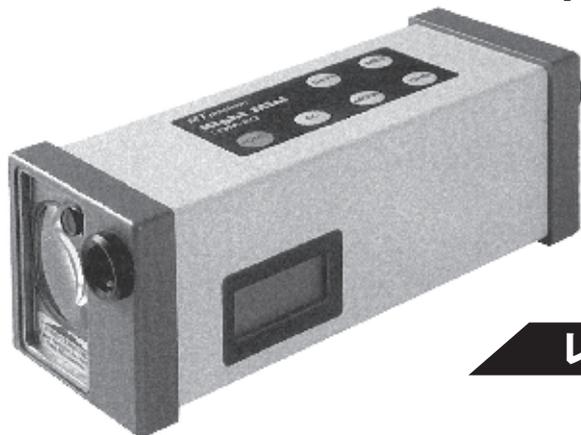


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定寸法	高さ・水平距離・斜距離
重量	W64・H64・D180
付属品	650g
	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



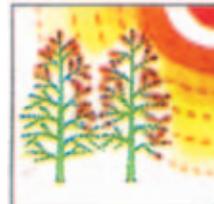
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



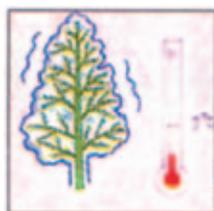
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

ヤマビル対策に

マリックスター(駆除剤)

蜂さされ防止

ハチノックL(楽退治)
ハチノックS(携帯用)

タケを駆除する

クロレートS

**大切な日本の松を守る
住化グリーンの林業薬剤**

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート(茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)

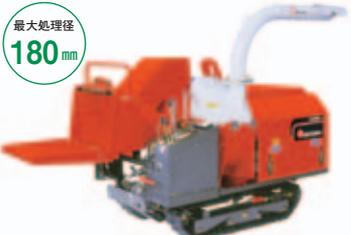


住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。 機器はゼノアから

チッパシュレッダ



竹もOK!
SR3000-2
出力 22.3kW (質量1,330kg)
水冷ディーゼル
X379301020
¥3,375,000(税抜)

プロソー



GZ3950EZ
排気量 39.1cm³ (質量4.4kg)
40cm(16")
RSP 21BPX 967159403 ¥111,200(税抜)
95VPX 967159303
HS 25AP 967159104
91VXL 967159204



GZ4350EZ
排気量 43.1cm³ (質量4.4kg)
45cm(18")
RSP 21BPX 967160502 ¥137,700(税抜)
95VPX 967159902
HM 21BPX 967160504
95VPX 967159904

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1